

◆ 目黒区 ◆

中小企業の景況

令和5年度第3四半期
(令和5年10~12月)



目黒区 産業経済部 産業経済・消費生活課

目 次

1. 都内中小企業の景況	1
2. 目黒区内中小企業の景況（令和5年10～12月期）	2
(1) 今期の特徴点	2
(2) 今期の景況と来期の見通し	4
製造業	4
卸売業	8
小売業	11
サービス業	14
建設業	17
(3) 調査員のコメント	20
3. 日銀短観／東京都と目黒区の企業倒産動向（令和5年12月）	23
4. 特別調査「2024年（令和6年）の経営見通し」	26
5. 中小企業景況調査 比較表・転記表	28

調 査 の 概 要

1. 調査時期 令和5年10～12月期（四半期毎実施）
2. 調査方法 面接聴取調査
3. 調査の対象と回収状況

	調査対象事業所数	有効回答事業所数
製 造 業	60	59
卸 売 業	20	20
小 売 業	32	32
サービス業	42	41
建 設 業	31	31
合 計	185	183

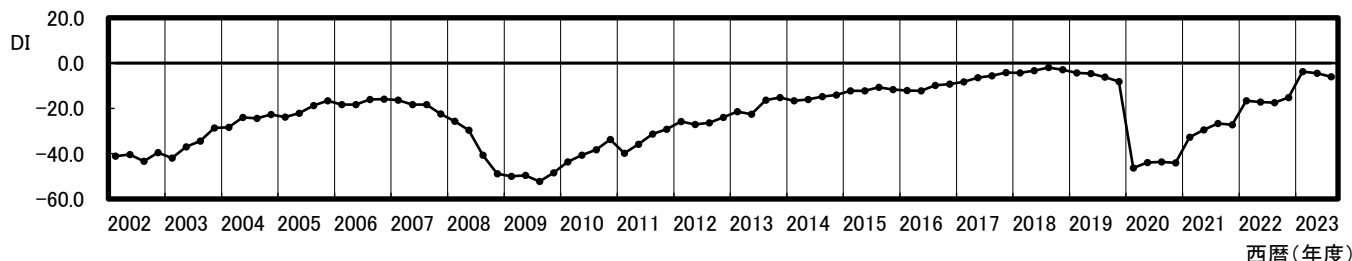
調査実施機関 一般社団法人東京都信用金庫協会
分析実施機関 株式会社東京商工リサーチ

1. 都内中小企業の景況（令和5年10～12月期）

（一般社団法人 東京都信用金庫協会調べ）

業況は前期同様の厳しさが続く

都内中小企業景況・6業種合計 DI



今期の6業種合計の業況判断DIは、売上額、収益がわずかに減少を強めたことから、△6.1（前期△4.5）と前期同様の厳しさが続いた。

業種別で見ると、業況は全業種において前期と同様で推移しているものの、卸売業において売上額が減少を強めていることが懸念される。

来期は、不動産業がやや弱含むものの、卸売業が水面下ながらわずかに改善し、建設業は今期並の良好感が続き、その他の業種では今期同様の厳しさで推移すると予想している。

	前 期	今 期	増 減	来期予想	今期との増減
製 造 業	-7.5	-9.0	-1.5	-7.7	1.3
卸 売 業	-8.3	-9.1	-0.8	-6.5	2.6
小 売 業	-13.9	-15.0	-1.1	-14.9	0.1
サ ー ビ ス	-3.9	-5.8	-1.9	-5.0	0.8
建 設 業	9.7	8.1	-1.6	10.3	2.2
不 動 産 業	5.7	5.5	-0.2	1.5	-4.0
総 合	-4.5	-6.1	-1.6	-5.2	0.9

<製造業>

業況は前期並の悪化幅で推移した。売上額・受注残は増加からわずかに減少に転じた。収益は前期並の減少が続いた。価格面では原料価格はやや落着きを見せたものの、販売価格は前期並の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は「原材料高」、「売上の停滞・減少」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は今期並の厳しさで推移すると予想し、売上額・受注残は増減なく推移すると見ている。

<卸売業>

業況は前期同様の厳しさが続いた。売上額は増加から大幅に減少に転じ、収益は前期並の減少が続いた。価格面では仕入価格の上昇がわずかに弱まったものの、販売価格は前期並の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「利幅の縮小」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「販路を広げる」、「経費を節減する」の順となっている。

来期の業況は水面下ながらわずかに改善すると見ており、売上額はやや好転し、収益はわずかに改善すると予想している。

<小売業>

業況は前期並の悪化幅で推移した。売上額はわずかに減少を強め、収益はやや減少幅を拡大させた。価格面では仕入価格はやや落着きを見せたものの、販売価格は前期並の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「売上の停滞・減少」、「仕入先からの値上げ要請」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「品揃えを改善する」の順となっている。

来期の業況は今期並の厳しさが続くことと予想している。売上額・収益ともに今期同様の減少幅で推移すると見ている。

<サービス業>

業況は前期同様の厳しさが続き、売上額はわずかに増加傾向が後退し、収益は大幅に減少を強めた。価格面では材料価格・料金価格ともに前期並の上昇が続いた。

経営上の問題点の上位2位は「売上の停滞・減少」、「人手不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は前期同様に「経費を節減する」、「販路を広げる」の順となっている。

来期の業況は今期同様の厳しさが続くことと見ており、売上額は増減なく推移し、収益は今期並の減少が続くと予想している。

<建設業>

業況は前期並の良好感が続いた。売上額・受注残・施工高は大きく増加傾向が後退し、前期増加に転じた収益は再び水面下に落ち込んだ。価格面では材料価格は上昇幅がやや縮小し、請負価格は前期並の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「材料価格の上昇」、「人手不足」の順となり、重点経営施策の上位2位も前期同様に「経費を節減する」、「人材を確保する」の順となっている。

来期の業況は今期並の良好感が続くことと予想している。売上額・受注残・施工高は今期同様の増加が続き、収益も今期並の水準と予想している。

<不動産業>

業況は前期同様の水準で推移した。売上額はやや増加幅が縮小し、収益は前期並の増益が続いた。価格面では販売価格・仕入価格ともに前期並の上昇が続いている。

経営上の問題点の上位2位は前期同様に「商品物件の高騰」、「商品物件の不足」の順となり、重点経営施策の上位2位は「情報力を強化する」に次いで、「販路を広げる」と「経費を節減する」が同率となっている。

来期の業況はやや弱含むと予想している。売上額は今期同様の増加が続き、収益も今期並の増益で推移すると見ている。

[注]

○D.I (Diffusion Index ディフュージョン インデックス の略)

D.I (ディーアイ) は増加 (又は「上昇」「楽」など) したと答えた企業割合から、減少 (又は「下降」「苦しい」など) したと答えた企業割合を差し引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらの力が強いかを比べて時系列的に傾向をみようとするものです。

○ (季調済) D.I・・・本調査における D.I は季調済 D.I を使用しています。

季調済とは、期ごとに季節的な変動を繰り返す D.I を過去5年間まで遡って季節的な変動を除去して加工した D.I 値です。修正値ともいいます。

○傾向値

傾向値は、季節変動の大きな業種 (例えば小売業) ほど有効で、過去の推移を一層なめらかにして景気の方角をみる方法です。